

グリーンエコシティ岩見沢

発行：ごみのよりよい始末を進める市民会議

私たち「ごみのよりよい始末を進める市民会議」代表委員は平成23年8月1日に市より委嘱を受け、これまでにダンボールコンポストの基材づくりや平成23年12月のプラスチック製容器包装の分別収集開始に伴い、町会等地域での普及徹底に積極的に活動してまいりました。



また、平成24年7月1日から7日に開催された「いわみざわ環境週間」の期間中、スーパーの店頭でマイバッグ推進運動や「環境フェスタ」及び「環境フェスタ講演会」を開催し、市民の皆さまにごみ減量化、リサイクル推進の呼びかけを行ってまいりました。

その他、市のじん芥処理センターの最終処分場やリサイクルセンターの見学を行うとともに、小樽の北しりべし広域クリーンセンターや民間のプラスチック製容器包装のリサイクル工場を見学するなど、視察研修を行い、知識を深めて、今後の活動に役立つ様努力してまいりました。

今後につきましては、プラスチック製容器包装やびん・缶・ペットボトルの分別回収の推進をはじめ、古新聞、ダンボールなど奨励金制度を活用した集団資源回収の推進に力を注いでまいります。

「ごみ減量化検討委員会」において、ごみ減量化に向けた施策の検討を行っています。この委員会には、市民会議からも市民の代表として参加しておりますが、今後委員会では、収集方法やごみの有料化など、ごみ減量化の取り組みなどについて意見をまとめ、市に提言する予定です。

市民会議の代表委員は、町会連合会やごみ減量化検討委員会とともに行政と一体となって、市民の皆さまのご協力とご理解を得ながら活動してまいりたいと考えております。

ごみのよりよい始末を進める市民会議 代表委員長 春木 芳則

ごみのよりよい始末を進める市民会議活動報告

●ごみ処理施設の見学及び勉強会（5月11日）

じん芥処理センターとリサイクルセンターを見学しました。市民の協力のもと、ごみの減量とリサイクル品の分別を推進して来ましたが、未だ分別が不十分であり、今一度、戸別に配布された「ごみの分別のチラシ」を参考にして、より一層のご協力をお願い致します。



●ダンボールコンポスト基材作り

ダンボールコンポストは生ごみが肥料になる魔法の箱、基材作りは鼻の周りがまっ黒、変身の術！

ダンボールコンポストはちょっと手間がかかりますが、発酵して分解が始まると作業が楽しくなり、どの野菜・お花の肥料にしようかと夢が膨らみます。



●環境フェスタ（7月7日）

であえーる岩見沢にて環境フェスタを開催。盛大で盛り上がった！年に1回では寂しい。

講演会では国の審議会専門委員の松田美夜子さんから基調講演をいただき、その後、熱海市役所・コープさっぽろ・岩見沢市教育委員会の代表から具体的な取り組みの報告が行われました。その後、参加者からの質問・意見に対する考え等が示されました。最後に参加者全体で岩見沢市における「ごみの減量化とリサイクルの推進」の取り組み強化を市民の皆さんにご協力いただくことを確認し終了しました。



●マイバッグ推進運動（7月第一週）

各スーパーでマイバッグの使用を呼びかけました。女性の方は大体持ち歩いていると思いました。レジ系の方は、レジの作業が少し楽になった事と、経済的にも節約になるのでは、と言っていました。ダンボールを使用した方は、集団資源回収に出すようにお願いします。

また、2円～5円でレジ袋を買っている方、ちりも積もれば山となります。買い物にはマイバッグをお持ち下さい。



●秋季祭典啓発（9月15・16日）

出店のごみはこちらに！

鉄缶、アルミ缶、ペットボトル、燃えるごみ、燃えないごみ、プラ容器の資源ごみ。

若い人はさすが！

フットワーク良く順応がはやい！



●道内視察旅行（10月15日）

北しりべし広域クリーンセンター（小樽市）

まさしく「クリーンなごみ処理工場」という第一印象。施設の運転管理は集中操作管理方式で、ごみクレーンの全自動運転装置など最新の設備でした。

とはいえ、処理の流れには「手作業」の人が欠かせません。そうした方々を思いやる分別を忘れないで下さい。



エコパーク三笠（三笠市）

札幌・小樽・岩見沢の「プラ容器」が集まっています。集まったプラ容器はインゴットやペレットにしています。

「えっ！それって何？」

「プラスチック製品の原料だよ。でも、岩見沢から持ち込まれるプラごみ梱包にも異物が結構混ざっているんだって」

「うーん、不名誉だ！」

…異物の混入が多かったり汚れのひどい場合には負担額の割合が高くなったり、最悪の場合は受け取りを拒否されることもあります。どうぞプラスチック分別の徹底を一緒に進めましょう。



集団資源回収にご協力を！

岩見沢市では現在、町内会をはじめ多くの団体が、資源回収活動に取り組んでおり、リサイクルの推進に大きな役割を果たすとともに、町内会等の貴重な財源となり、地域活動に役立っています。

今回、集団資源回収に一丸となって取り組んでいる団体の一つとして、若松地区町会連絡協議会の会長である三上宏一さんから寄稿して頂きましたのでご紹介します。

「ごみの減量化・資源化に取り組んで」

若松地区町会連絡協議会長 三上 宏一

市の「ごみの減量化・資源化」を目的とした集団資源回収奨励金の制度は、若松地区にとっては願ってもない朗報でした。対象品目も新聞・雑誌・ダンボール・紙パック類であり、若松地区が取り組んでいる事と合致し、その目的は理解と協力を得て更なる活動へと広がりを見せて実績を伸ばしています。



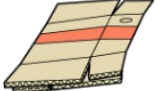

若松地区協の資源回収は、月2回第2・第4月曜日に設定され、20数年の歴史と伝統があり、地区協活動の大きな財源としてその益金は有効活用が成されており、約1,300世帯の皆さんのほとんどが支えになっています。

今回、市より上半期の交付決定通知書が届きました。交付決定金額が20万円をこえ、重量にして100tを上回り、関係者一同驚きの声を上げました。備蓄し大切に活用します。

今後もこの制度・運動を正しく理解し、さらなる活動の輪を広げたいと思います。

★集団資源回収量アップのポイント

- **たくさんの人に参加してもらいましょう**
回収日を回覧で周知するなどして、たくさんの会員の方に参加を呼びかけましょう。
- **いろいろな紙類を出しましょう**
新聞、雑誌、ダンボール、紙パックに併せて、こんな紙類も一緒に集団資源回収に出すことができます！

回収品目	新聞 	雑誌 	ダンボール 	紙パック 
一緒に出す ことが出来るもの	チラシ(広告)	包装紙、紙袋、 はがき、手紙、 ノート、カレンダー、 カタログ	ティッシュの箱、 菓子箱、ラップの箱と芯、 トイレトペーパーの芯	ジュースの 紙パック

※紙類の他、アルミ缶や一升びんなども、集団資源回収に出しましょう。

編集後記



8名で編集を行い、初めての編集作業で、不慣れな面もあって大変でしたが、「クリーンエコシティ岩見沢」の第1号を発行することが出来ました。

三上会長を始め、編集にご協力いただいた方々に感謝いたします。

ごみのよりよい始末を進める市民会議

事務局：市役所廃棄物対策課 ☎23-4111(内線 213)